

事務事業名	舗装修繕事業	事業期間	2014 ~ 2022 年度	係内番号	02
担当部署	都市建設部	建設課	建設係	連絡先	506

政策番号	05	基本計画体系	項目	計画CD	計画名称	施策の柱CD	施策の柱の名称	実行計画の施策の柱における指標との関連度	高
			基本計画①	01	都市計画マスタープラン	0202	交通施設整備の方針		
			基本計画②	01	都市計画マスタープラン	0202	交通施設整備の方針		
			実行計画	03	道路河川等整備計画	0302	中・大規模道路修繕事業		

予算事業名	舗装修繕事業	会計コード	01	款	08	項	02	目	03	事業	02
-------	--------	-------	----	---	----	---	----	---	----	----	----

事務事業の概要
 (簡潔にわかりやすく)
 主要幹線市道において、道路及び付属物施設の健全性について調査・点検および評価を行ない、数値化することによって施設の劣化状況を把握する。このデータと平成25年に実施した市道路面性状調査の結果により策定した舗装修繕計画に基づき修繕工事を実施する。また、次期計画をにらみ、緊急性の高い主要幹線について引き続き点検を行う。

現状と背景
 (どうして)
 主要市道の総延長が長く、これに付属する施設も広範囲に点在している。また、これら施設に関わる台帳等の帳票も整備されていなかったため、客観的な調査や点検ができていなかったのが現状である。このため、修繕箇所も計画的ではなく劣化・損傷した物から順次修繕していくといった事後対応を実施していた。

目的
 受益者 (誰のために)
 対象 (直接働きかける)
 意図 (どんな状態にしたいか)
 すべての市道利用者
 1、2級市道並びにその他幹線市道および道路付属施設

道路および付属物施設の健全性について調査・点検および評価を行なうことと台帳等の帳票整備を進めることにより、修繕計画を策定し、優先順位を明確にできる。また、修繕計画に基づき修繕工事を実施することにより、長年に渡る財政の平準化を図ることができる。

手段・方法
 (どうやって)
 平成25年度に実施した路面性状調査の結果に基づき、優先順位の高い路線について修繕工法の検討を行ない、修繕工事を実施していく。また、道路付属施設については、近接目視による点検を行ない、損傷の度合いを数値化し損傷および劣化状況の把握する。また、台帳等の帳票の作成とGISを利用したデータベースの構築を行なう。

評価指標の作成	活動指標	行政が活動することで作り出すもの				指標名称	単位	算出方法・計算式・目標値設定の考え方など	最終目標値
		1	舗装修繕	舗装修繕済延長	km	年間の舗装修繕延長	6.5		
2									
3									
変更履歴	2022年の最終目標を6.5Kmとし、各年度までの累計を管理する。								
成果指標	成果・効果は何？				指標名称	単位	算出方法・計算式・目標値設定の考え方など	最終目標値	
	1	計画期間内舗装修繕率	舗装修繕率	%	修繕済延長/計画延長×100	100			
2									
変更履歴									

実施状況	項目	単位	2018年度(H30)	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
			事業費等(a)	円	38,529,000	21,846,000	146,000,000
財源内訳	国庫支出金	円	17,595,000	10,614,000	73,000,000		
	県支出金	円					
	地方債	円	15,800,000	9,500,000	65,700,000		
	その他特定財源	円					
活動指標	舗装修繕済延長	目標	4.1	4.7			
		実績	3.7	4.1			
	達成率	90.24	87.23	-	-	-	
	-	目標	-	-	-	-	-
実績		-	-	-	-	-	
-	目標	-	-	-	-	-	
	実績	-	-	-	-	-	
成果指標	舗装修繕率	目標	63	72			
		実績	60	63			
	達成率	95.24	87.50	-	-	-	
	-	目標	-	-	-	-	-
実績		-	-	-	-	-	
達成率	-	-	-	-	-		
備考							

事務事業名	舗装修繕事業		事業期間	2014	～	2022	年度	係内番号	02
担当部署	都市建設部	建設課	建設係				連絡先	506	

事後評価	項目	2018年度 (H30)	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
	（成変果動指要標因分）析		H30年度については、舗装修繕事業に対する国の方針により、交付金の交付率が低く、この交付率に事業量を合せたことから、計画延長の0.84kmに対し、0.38kmの施工延長であり、目標を達成することができなかった。	R元年度については、全県において舗装修繕事業に対する交付金の交付率が低く、この交付率に事業量を合せたことから、計画延長の0.6kmに対し、0.4kmの施工延長であった。目標を達成することができなかった。		
価値（総合評価）	成果	本路線は玉川、泉野地区と市街地を結ぶ主要幹線であり、諏訪中央病院が隣接した道路になる。本路線の舗装修繕工事により、利用者の利便性、安全性が確保でき、特に緊急車両の走行性の向上が図れた。	本路線は県道神之原青柳停車場線からグリーンラインを結ぶ主要幹線道路である。本路線の舗装修繕工事により、利用者の利便性、安全性の確保が図れた。			
	課題	来年度以降について、国の方針が変わり交付率が上がるとは考えにくい、今後、舗装修繕事業の予算をどのように確保して行くかが課題である。	交付金の内示率が低いため、事業の進捗率が上がらない。予算処置において、採択事業の検討を行う必要がある。			
改革	翌々年度方向性	成果 コスト	現状維持 現状維持	拡充 拡大		
	改善の方向性（内容）	コストについては現状維持で進めたい事業である。今年度、舗装修繕計画の第1期工事（H27～R元）の5年間で終了する。来年度からの第2期工事について、予定個所の再検討を行う。また、交付金に替わる新しい起債事業の取組を検討する。	交付金の内示率が低く事業の進捗が図れず、遅延が次年度へ加算されることにより、事業費が拡充となる。第2期舗装集中修繕について、予定個所の検討を行い、起債事業の取組と併せて、検討する必要がある。			
作成担当者	小松 征矢	小松 征矢				
最終評価責任者	大谷 勝己	黒澤 俊彦				
最終評価年月日	2019年5月17日	2020年7月3日				

事務事業名	幹線道路整備事業(2級8号線)	事業期間	2015 ~ 2020 年度	係内番号	04
担当部署	都市建設部 建設課	建設係		連絡先	506

政策番号	05	基本計画体系	項目	計画CD	計画名称	施策の柱CD	施策の柱の名称	実行計画の施策の柱における指標との関連度	高
			基本計画①	01	都市計画マスタープラン	0202	交通施設整備の方針		
			基本計画②	01	都市計画マスタープラン	0202	交通施設整備の方針		
			実行計画	03	道路河川等整備計画	0301	道路改築・改良事業		

予算事業名	幹線道路整備事業(2級8号線)	会計コード	01	款	08	項	02	目	03	事業	04
-------	-----------------	-------	----	---	----	---	----	---	----	----	----

事務事業の概要
(簡潔にわかりやすく)
市道2級8号線は、県道榑木矢ヶ崎線と諏訪中央病院線を結ぶ路線であるが、一部狭隘道路を解消するためバイパスルートを創設する必要がある。本事業により、狭隘道路の解消とともに中央病院北側の粟沢地区方面からのアクセス性が向上し、安心安全なまちづくりに寄与するものである。

現状と背景
(どうして)
現状の2級8号線は道路幅員が狭く、生活道路としての機能を果たしていない。また、神之原広田地区ほ場整備事業の中で幹線道路の建設が必要になった。これらの課題を解消するため、2級8号の道路改良工事を行い中央病院へのアクセスを向上させることが必要になった。

目的
対象者 (誰のために)
市道利用者及び沿線住民等
対象 (直接働きかける)
沿線の関係者(土地所有者、住民等)
意図 (どんな状態にしたいか)
生活道路の確保、交通環境の改善、交通事故の防止、および交通の円滑化を図る。

手段・方法
(どうやって)
神之原広田地区ほ場整備事業と本事業を関連させながら、効率的に事業を進める。

評価指標の作成	活動指標	行政が活動することで作り出すもの	指標名称	単位	算出方法・計算式・目標値設定の考え方など	最終目標値	
		1	道路改良	道路改良延長	m	工事施工延長	1,040
	2	用地買収	用地買収件数	件	用地補償対象件数	32	
	3						
	変更履歴	※各年度の施工延長については重複する箇所があるため、完成延長が明確に表示できない。工事進捗率で進行管理を行う。					
成果指標	成果指標	成果・効果は何？	指標名称	単位	算出方法・計算式・目標値設定の考え方など	最終目標値	
		1	用地取得	用地取得進捗率	%	契約件数/全件数×100	100
		2	道路改良	道路改良工事進捗率	%	工事施工延長/道路改良工事総延長×100	100
	変更履歴						

実施状況	項目	単位	2018年度(H30)	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
			事業費等(a)	円	91,498,614	103,499,862	70,000,000
財源内訳	国庫支出金	円	47,458,000	51,620,000	35,000,000		
	県支出金	円					
	地方債	円	25,800,000	46,400,000	31,500,000		
	その他特定財源	円					
	一般財源	円	18,240,614	5,479,862	3,500,000		
活動指標	道路改良延長	目標	m	485	637		
		実績		0	0		
		達成率	%	0.00	0.00	-	-
	用地買収件数	目標	件	3	3		
		実績		3	0		
		達成率	%	100.00	0.00	-	-
-	目標	-					
	実績						
	達成率	%	-	-	-	-	
成果指標	用地取得進捗率	目標	%	60	100		
		実績		60	62		
		達成率	%	100.00	62.00	-	-
	道路改良工事進捗率	目標	%	100	100		
		実績		0	40		
		達成率	%	0.00	40.00	-	-
備考							

事務事業名	幹線道路整備事業(2級8号線)		事業期間	2015	~	2020	年度	係内番号	04
担当部署	都市建設部	建設課	建設係					連絡先	506

事後評価	項目	2018年度 (H30)	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
	変果動指要標因分	～成	工事については、県営圃場整備事業の遅れの影響により工事着手が遅くなった為、年度内の完工に至らず繰越となり、目標値対し成果は0%となった。また、用地取得については、予定していた地権者3名の内1名の合意が得られなかったが、他の地権者との契約に至り100%となった。	工事については、電柱移転が遅れが生じ工事着手が遅くなった為、年度内の完工に至らず繰越となった。目標値に対し成果は0%となった。また、用地取得については、ほ場整備委員会との契約は完了したが、目標の3件は未契約であった。		
価値	総合評価	成果	年度内完工とはならなかったが、工事を着実に進めることができ、次年度工事につながる基盤ができた。また、用地買取についても数度にわたり粘り強く交渉したことにより、予定していた件数の契約をすることができた。	工事については年度内竣工にはならなかったが、諏訪中央病院から東海大学諏訪高等学校入口までの間は、令和2年度3月に、開通する目途が立った。用地取得については、地権者の理解が得られず未契約であった。		
		課題	用地買取に対して同意していない地権者3名の説得が課題となる。この交渉の次第により全線供用開始時期が遅れていくことになる。	東海大諏訪高校入口から県道までの粟沢地籍について、地権者の理解を得られるよう、道路の設計変更を行い、用地交渉を進める必要がある。		
改革	翌々年度方向性	成果	現状維持	縮小		
		コスト	縮小	縮小		
改善の方向性	改善の方向性	成果	事業費が減少することによりコストは縮小する。東海大諏訪高校グラウンド横から中央病院までの神之原方面の区間については、令和2年度供用開始に向け、工程管理を徹底し工事を着実に進めていきたい。なお、現状で不足している盛土に使用する土を極力低コストで確保することが事業費の抑制につながる為、早急に確保の手段を検討していく。また、用地取得が完了していない粟沢方面については、早期開通ができるよう、引き続き同意を得られていない地権者の説得及び交渉を行っていく。	令和3年度は工事費が減少し、事業縮小となる。東海大諏訪高校入口から中央病院までの神之原方面の区間については、令和2年度3月に供用開始できるよう、工程管理を徹底し着実に進めていきたい。また、用地取得が完了していない粟沢地籍については、地権者の意向を含めた設計変更を検討し、説得及び交渉を行っていく。諏訪中央病院上の新設する交差点について、信号機設置、排水施設の検討を行う。		
		策び容				
作成担当者	荒井 憲一	荒井 憲一				
最終評価責任者	大谷 勝己	黒澤 俊彦				
最終評価年月日	2019年5月17日	2020年7月3日				

事務事業名	橋梁修繕事業	事業期間	2013 ~ 2022 年度	係内番号	05
担当部署	都市建設部 建設課	建設係		連絡先	506

政策番号	05	基本計画①	01	都市計画マスタープラン	0202	交通施設整備の方針	実行計画の施策の柱における指標との関連度	高						
		基本計画②	01	都市計画マスタープラン	0202	交通施設整備の方針								
		実行計画	03	道路河川等整備計画	0303	橋梁整備事業								
		項目	計画CD	計画名称	施策の柱CD	施策の柱の名称								
計	予 算 事 業 名	橋梁修繕事業			会計コード	01	款	08	項	02	目	03	事業	05
画	事務事業の概要	今後老朽化する茅野市の道路橋（以下「橋梁」という。）の増大に対応するため、長寿命化修繕計画に従って事後的な修繕から予防的な修繕へと政策転換をしている。重要度の高い橋梁から、修繕工事のための調査を行い工事を実施する。 (簡潔にわかりやすく)												
P 目 的 的 意 図 （どんな状態にしたいか）	対象	受益者	橋梁を渡るすべての人、橋梁の下を通る車両等。											
	対象	対象	茅野市が管理する橋梁											
	意図	意図	延命化を図るため橋梁の損傷を改善する。											
	手段・方法	手段・方法	橋梁毎に、損傷や重要度に見合った修繕工事を実施する。											
N 評 価 指 標 の 作 成	活動指標	行政が活動することで作り出すもの	指 標 名 称	単 位	算出方法・計算式・目標値設定の考え方など	最終目標値								
	1	修繕橋梁数（累計）	修繕橋梁数	橋	修繕橋梁数（累計）	25								
	2													
	3													
変更履歴	2022年の最終目標を25橋とし、各年度までの累計を管理する。													
成果指標	成果・効果は何？	指 標 名 称	単 位	算出方法・計算式・目標値設定の考え方など	最終目標値									
1	橋梁補修	補修橋梁率	%	補修済橋梁数／補修必要橋梁数×100	100									
2														
変更履歴														

実 施 状 況 （ D O ） 考	項 目	単位	2018年度(H30)	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	
	事業費等(a)	円	31,730,400	94,510,256	55,000,000			
	財源内訳							
	国庫支出金	円	17,451,000	51,742,000	30,250,000			
	県支出金	円						
	地方債	円	12,800,000	20,908,000	22,200,000			
	その他特定財源	円						
	一般財源	円	1,479,400	21,860,256	2,550,000			
	活動指標	修繕橋梁数	目標	橋	20	21	23	
			実績		15	20		
			達成率	%	75.00	95.24	-	-
	活動指標	-	目標					
			実績					
			達成率	%	-	-	-	-
	活動指標	-	目標					
実績								
達成率			%	-	-	-	-	
成果指標	補修橋梁率	目標	%	80	84	92		
		実績		60	80			
		達成率	%	75.00	95.24	-	-	
成果指標	-	目標						
		実績						
		達成率	%	-	-	-	-	

事務事業名	橋梁修繕事業		事業期間	2013	～	2022	年度	係内番号	05
担当部署	都市建設部	建設課	建設係				連絡先	506	

事後評価	項目	2018年度 (H30)	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	
	（成変果）	動指要標	本年度までの目標は20橋であったが、NEXCOとの交通規制協議と、工事の契約事務に時間を要し、中央自動車道に掛かる5橋が完成できなかった。この工事については次年度へ繰越したため、修繕橋梁数の達成率は80%となった。	H30繰越しの中央道に掛かる5橋の修繕工事が完成できた。しかし、公園大橋補修工事が工事時期の調整により次年度へ繰越したため、修繕橋梁数の達成率は80%となった。			
価値	総合評価	成果	本年度は宮川橋の1橋が完成し、市街地と諏訪を結ぶ市道1級幹線の整備を行うことができ、宮川地区の市民や通行者の安全性が確保できた。	緊急輸送路に指定されている中央道に架かる橋梁の整備が終了し、レベルIIを確保できた。			
		課題	2019年度に予定している公園大橋は、茅野市の主要幹線になるため、工事中の交通規制が課題となる。通行車両の関係者の協議や迂回路の工事との調整、市民への広報など、各関係者との調整が必要である。	茅野市の主要幹線に架かる公園大橋の補修工事を令和2年度に繰越して行う。市内の道路交通に重大な影響を及ぼすので関係機関との調整が必要である。			
改革	翌々年度方向性	成果	現状維持	現状維持			
		コスト	縮小	縮小			
改善の方向性	改善の方向性	成果	コストについてはR2年の橋梁の規模が小さくなることから縮小となる。2019年度に繰越をした5橋については工事監督を行い、安全な施工ができるように進める。公園大橋については、交通事業者、警察署、消防署などと協議を行い、円滑な交通規制ができるように調整を行う。また、この橋を頻繁に利用している事業者や、周辺施設、地元区に理解を求め、協力の依頼を行う。広報については、市の各広報宣伝を利用することと、現場周辺に工事予定看板の設置を行い、周知していきたい。	コストについてはR3年の橋梁の規模が小さくなることから縮小となる。今後、中央本線に架かる橋の修繕が計画されていることや、小規模の橋梁修繕が発生することから、令和4年以降コストが拡充となる。予算については、交付金で対応となるが、国が橋梁修繕事業を充実させており、100%の交付率が見込まれる。この時期にこの事業を拡充させることが必要である。			
		策び容					
作成担当者	小阪 和弘	小阪 和弘					
最終評価責任者	大谷 勝己	黒澤 俊彦					
最終評価年月日	2019年5月17日	2020年7月3日					

事務事業名	道路橋法定点検委託事業	事業期間	2014 ~	年度	係内番号	06
担当部署	都市建設部	建設課	建設係		連絡先	506

政策番号	05	基本計画体系	項目	計画CD	計画名称	施策の柱CD	施策の柱の名称	実行計画の施策の柱における指標との関連度	高
			基本計画①	01	都市計画マスタープラン	0202	交通施設整備の方針		
			基本計画②	01	都市計画マスタープラン	0202	交通施設整備の方針		
			実行計画	03	道路河川等整備計画	0303	橋梁整備事業		

予 算 事 業 名 道路橋法定点検委託事業 会計コード 01 款 08 項 02 目 03 事業 06

事務事業の概要
(簡潔にわかりやすく)
道路法に基づき、トンネル、橋等について5年に1回の近接目視による点検等を規定する道路法施行規則の一部を改正する省令が平成26年3月31日公布され、平成26年7月1日より施行された。この改正により、茅野市の管理橋梁504橋について、5年以内に全て点検を行い、その後、5年毎に定期点検することが義務化された。

現 状 と 背 景
(どうして)
橋梁の高齢化と劣化が急速に進んでいる。橋梁の定期点検を行い、橋梁の最新の状態を把握するとともに、次回の定期点検までの措置の必要性の判断を行う上で必要な情報を得るために行う。

対 象
受 益 者
(誰のために)
橋梁を渡る人、橋梁の下を通る車両等。
対 象
(直接働きかける)
茅野市管理する橋
意 図
(どんな状態にしたいか)
損傷の度合いを調べ、損傷の修繕方法・時期を明らかにする。

手 段 ・ 方 法
(どうやって)
「道路橋定期点検要領」（平成26年6月 国土交通省道路局）に従い、橋梁の部材ごとに近接目視や打音調査等を行う。点検結果は要領に指定されている様式により取りまとめを行う。

活動指標	行政が活動することで作り出すもの		指 標 名 称	単 位	算出方法・計算式・目標値設定の考え方など	最終目標値
	1	橋梁点検数（累計）	橋梁点検数（累計）	橋	橋梁点検数（累計）	504
2						
3						
変更履歴						

成果指標	成果・効果は何？		指 標 名 称	単 位	算出方法・計算式・目標値設定の考え方など	最終目標値
	1	計画期間内の橋梁点検	計画期間内点検橋梁率	%	点検済橋梁数／全体橋梁数×100	100
2						
変更履歴						

活動指標	目標		2018年度(H30)	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
	1	橋梁点検数（累計）	504	86	120		
		実績	504	86			
		達成率	100.00	100.00	-	-	-
		目標					
		実績					
		達成率					
		目標	100	100	100		
		実績	100	100			
		達成率	100.00	100.00	-	-	-
		目標					
		実績					
		達成率					

活動指標	目標		2018年度(H30)	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
	1	計画期間内点検橋梁率	100	100	100		
		実績	100	100			
		達成率	100.00	100.00	-	-	-
		目標					
		実績					
		達成率					

項 目	単位	2018年度(H30)	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
事業費等(a)	円	27,466,400	42,983,200	34,000,000		
財源内訳						
国庫支出金	円	14,941,000	23,636,000	18,700,000		
県支出金	円					
地方債	円					
その他特定財源	円					
一般財源	円	12,525,400	19,347,200	15,300,000		

備 考 ※道路法の法律により5年に1回の点検が義務付けられているため、2019年度から2回目の点検が開始となった。

事務事業名	道路橋法定点検委託事業		事業期間	2014	～	年度	係内番号	06
担当部署	都市建設部	建設課	建設係				連絡先	506

事後評価	項目	2018年度 (H30)	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
	（成変果動指要標因分）析		本業務は、平成26年～平成30年の5年間で茅野市にある橋梁(504橋)を点検する事業である。今年度は計画数が57橋に対し、実際に点検した数が57橋と、目標値に対し100%の達成が得られた。また、5年で504橋の点検計画に対し、504橋点検ができ、目標値に対し100%の達成が得られた。	本業務は、法律で定められた5年に1度の法定点検事業である。今年度は計画数が86橋に対し、実際に点検した数が86橋と、目標値に対し100%の達成が得られた。また、平成30年に1回目の点検が終了し、このデータを基に第2期長寿命化計画の策定ができた。		
価値（総合評価）	成果	点検を行うことにより、市内の橋梁がどういった状態であるのかがわかり、健全度を測定することができた。それにより、補修の必要がある橋梁の把握ができ、今後の修繕の計画を立てることが出来るようになった。	点検により、橋梁の安全性が確保されている。第2期長寿命化計画にて、レベルⅢの修繕が必要な橋梁の検討を行い、具体的な計画の策定ができた。			
	課題	第2期の点検方法について、第1期の結果をどのように反映させ、進める必要があるか検討が必要である。第1期の点検結果により修繕工事を行い、安全性が向上した橋梁など、コスト削減を意識した計画が必要である。	レベルⅢの追跡調査(経過観察)する橋梁が20橋、通行規制の橋梁が4橋ある。追跡調査は毎年点検となり、通行規制は地元調整が必要であることから、業務量が増となる。業務を分担する必要がある。			
改革	成果	現状維持	現状維持			
	コスト	縮小	縮小			
改善の方向性（内容）	改善の方向性の内容	5年周期で行われる点検業務において、第1期の点検結果がある中で点検する橋梁の優先順位の選択、修繕工事を行った橋梁のコストを考慮した点検方法の検討が必要となる。	R元年度に対してR2年度は委託する橋梁数が少ないため、事業費は縮小となる。法律で定められた点検業務であるため、コストを意識した委託業務を遂行し、職員で行える業務を正確に進める必要がある。			
作成担当者	小松 征矢	小松 征矢				
最終評価責任者	大谷 勝己	黒澤 俊彦				
最終評価年月日	2019年5月17日	2020年7月3日				

事務事業名	生活道路整備事業	事業期間	～	年度	係内番号	01
担当部署	都市建設部	建設課	建設係	連絡先	506	

政策番号	05	基本計画体系	項目	計画CD	計画名称	施策の柱CD	施策の柱の名称	実行計画の施策の柱における指標との関連度	高
			基本計画①	01	都市計画マスタープラン	0202	交通施設整備の方針		
			基本計画②	01	都市計画マスタープラン	0202	交通施設整備の方針		
			実行計画	03	道路河川等整備計画	0301	道路改築・改良事業		

予算事業名	生活道路整備事業	会計コード	01	款	08	項	02	目	03	事業	01
-------	----------	-------	----	---	----	---	----	---	----	----	----

事務事業の概要
(簡潔にわかりやすく)
市道を改良することにより、生活道路の確保、交通環境の改善を行い、もって交通事故の防止を図り、あわせて交通の円滑化に資することを目的とする。

現状と背景
(どうして)
道路幅員が狭く、生活道路としての機能を果たしていない。円滑な交通が確保されていない。道路ストック及び付属道路施設等が老朽化してきている。

目的
対象者 (誰のために)
市道利用者及び沿線住民
対象 (直接働きかける)
沿線の関係者(土地所有者、住民等)
意図 (どんな状態にしたいか)
生活道路の確保、交通環境の改善、交通事故の防止、及び交通の円滑化を図る。

手段・方法
(どうやって)
道路改良のみならず、道路側溝(水路)、舗装、法面等道路に付随する施設も整備していく。地元区要望書に対する対応についても、きめ細やかな対応ができるように努める。

評価指標の作成	行政が活動することで作り出すもの	指標名称	単位	算出方法・計算式・目標値設定の考え方など	最終目標値	
		1	年度内工事実施率	年度内工事実施率	%	年度内工事実施数/年度内工事予定数×100
2						
3						
変更履歴						
成果指標	成果・効果は何？		指標名称	単位	算出方法・計算式・目標値設定の考え方など	最終目標値
	1	工事整備率	年度内工事整備率	%	年度内整備済延長/年度内計画整備延長×100	100
2						
変更履歴						

実	項	目	単位	2018年度(H30)	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
財源内訳	事業費等(a)		円	357,249,323	339,013,533	271,982,000		
	国庫支出金		円					
	県支出金		円					
	地方債		円	270,000,000	237,800,000	237,400,000		
	その他特定財源		円					
活動指標	年度内工事実施率	目標	%	100	100	100		
		実績	%	100	95			
		達成率	%	100.00	94.95	-	-	-
	-	目標	-					
		実績	-					
		達成率	%	-	-	-	-	-
	-	目標	-					
		実績	-					
		達成率	%	-	-	-	-	-
	成果指標	年度内工事整備率	目標	%	100	100	100	
実績			%	100	91			
達成率			%	100.00	91.20	-	-	-
-		目標	-					
	実績	-						
	達成率	%	-	-	-	-		
備考								

事務事業名	生活道路整備事業	事業期間	～	年度	係内番号	01
担当部署	都市建設部	建設課	建設係		連絡先	506

事後評価	項目	2018年度 (H30)	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
	（成果）	この業務は各区、自治会から提出される要望書を基に実施している。本年度については改修延長10km、工事件数200件を行い、目標値に対し100%の達成が得られた。	本年度については改修延長10km、工事件数100件に対し、9.12km、94件であった。5件(879m)の繰り越し工事を行った。			
価値	総合評価	区の要望事項であった工事について実施したことにより、区の満足度向上を図れ、市民の要望であるインフラ整備により、安全性の確保、生活環境の改善、快適性の向上を図ることができた。	4月～6月の工事に適した時期に施行することを目的に、繰り越し工事を行い、請負者、地元区からは仕上がりについて評価を得た。要望事項の対応や、舗装集中修繕の実施により、安全性の確保、生活環境の改善、快適性の向上を図ることができた。			
	課題	本年度の工事箇所は平成28年～平成30年度に要望された内容も含まれ、古いものは3年遡って対応している。要望された事項に対し当年度又は翌年度に対応できるように早急な対応が求められる。	繰り越し工事について、年度当初に計画を立てることにより、多年度契約を進めたい。また、第2期舗装集中修繕事業の進捗を図り、市道の主要道の整備が急務となっている。			
改革	成果	現状維持	現状維持			
	コスト	現状維持	現状維持			
改善の方向性	成果	年間の要望件数は約200件であることから、目標値については、改修延長10km、工事件数200件で進めていきたい。但し、第2期工事になることから事業規模が縮小されるため、コストについては縮小となる。当年度又は翌年度に対応できるように、古い要望事項を整理し、計画的に工事を進める。	年間の要望件数は約200件であることから、目標値については、改修延長10km、工事件数200件で進めていきたい。第2期舗装修繕において計画的に進める必要があり、エコーライン、グリーンラインにおいて、緊急的に対応する必要がある。現状維持で進める。			
	方向性の内容					
策	策					
作成担当者	荒井 憲一	荒井 憲一				
最終評価責任者	大谷 勝己	黒澤 俊彦				
最終評価年月日	2019年5月17日	2020年7月3日				